

神奈川県観光振興計画の取組状況について

1 取組の概要

観光を取り巻く環境の変化や動向に対応した観光振興施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成28年3月に、2016（平成28）年度から2018（平成30）年度までを計画期間とする、新たな観光振興計画を策定し、計画に掲げた目標達成に向けて着実に取り組んでいる。

2 計画の目標と進捗状況

(1) 入込観光客数（暦年）

入込観光客数を毎年400万人ずつ増やし、2018（平成30）年には2億人とすることを目標とする。

	2014(平成26)年	2015(平成27)年	2016(平成28)年	2017(平成29)年	2018(平成30)年
目標	(1億7,600万人)	(1億7,800万人)	1億9,200万人	1億9,600万人	2億人
実績	1億8,410万人	1億9,297万人	1億9,033万人 <速報値>		

(2) 観光消費額総額（暦年）

観光消費額総額を毎年1,000億円ずつ増やし、2018（平成30）年には1兆5,000億円とすることを目標とする。

	2014(平成26)年	2015(平成27)年	2016(平成28)年	2017(平成29)年	2018(平成30)年
目標	(-)	(-)	1兆3,000億円	1兆4,000億円	1兆5,000億円
実績	9,600億円	1兆993億円	<集計中>		

(3) 外国人旅行者の訪問者数（暦年）

県内への外国人旅行者の訪問者数を毎年9万人ずつ増やし、2018（平成30）年には201万人とすることを目標とする。

	2014(平成26)年	2015(平成27)年	2016(平成28)年	2017(平成29)年	2018(平成30)年
目標	(126万人)	(136万人)	183万人	192万人	201万人
実績	165万人	223万人	231万人		

()は前計画（2013（平成25）年度から2015（平成27）年度）の目標値

3 平成28年度の主な取組実績

基本施策 1 魅力ある観光地の形成

(1) 観光資源の発掘・磨き上げ

ア 新たな観光の核づくり

平成24年度に、城ヶ島・三崎、大山、大磯の3地域を県が「新たな観光の核づくり」の候補地域として認定。各地域の構想の実現に向けて先導的な役割を果たすと認められる事業に対して、県が交付金を支出し支援

イ 産業ツーリズムの推進

「京浜臨海部産業観光推進協議会」（県、横浜市、川崎市及び立地企業、観光事業者等で構成）が主体となって、京浜臨海地域の産業観光を推進（産業観光シンポジウムの開催（10月25日 参加者72名）等）

ウ 商店街ツーリズムの推進

商店街や周辺の観光スポットを巡る商店街観光ツアーを実施（25件 参加者総数664名）

エ 第7回かながわ観光大賞の実施

観光客の増加や地域活性化等に大きく寄与した事業者・団体（9者）を表彰



商店街ツーリズムの様子

（伊勢原駅前中央商店会）

(2) 戦略的プロモーションの推進

ア 集中観光キャンペーンの実施

県、市町村、各観光協会、民間事業者等で構成する「神奈川集中観光キャンペーン実行委員会」が主体となって、観光キャンペーンを県内外で実施

イ 箱根プロモーションの実施

各種イベントにおいて、大涌谷の写真の展示や、箱根ロープウェイ全線の運行再開をPR

ウ 中部地方を対象とした観光プロモーションの実施

宿泊観光客の増加を図るため、JR名古屋駅で、観光プロモーションを実施

（3月19日～20日 来場者総数 4,600名）



全線運行を再開した箱根ロープウェイ

(3) 受入環境の整備

ア 第2回 高校生 外国人「おもてなしアイデア」コンテストの実施

県内に観光学科を持つ県内4大学と神奈川県で構成する「かながわ観光大学推進協議会」が主体となり、高校生の感覚で「かながわの魅力」を発見し、外国人の観光客や友人を「おもてなし」するアイデアを募集し表彰（25件）

イ ボランティアガイドの育成（平成28年11月補正予算事業）

(ア) 「神奈川歴史観光シンポジウム」を開催（3月4日 参加者 312名）

(イ) ボランティアガイドによるモニターツアーを実施（3月29日 参加者 34名）

基本施策2 外国人観光客の誘致促進

(1) インバウンドツアーの企画・商品化の促進

ア 神奈川県観光魅力創造協議会の設置

(ア) 協議会の目的

ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、国内外から観光客を誘致するため、平成28年6月に設置。発掘・磨き上げを行った観光コンテンツを活用した周遊モデルルートを提示して旅行業者等にツアーの商品化を要請。

(イ) 構成員

市町村関係団体、観光協会、旅行業団体、宿泊関係団体、交通事業者団体、経済団体、文化団体、農林水産団体等49団体、オブザーバー（関東運輸局）

(ウ) 取組内容

- a 地域の多彩な観光資源（コンテンツ）の発掘・磨き上げ
- b 多様な周遊ツアーの企画・商品化の促進
- c インバウンドツアーとしての認定
- d 観光資源発掘セミナーの開催（2回）
- e 出前セミナーの実施（30回）
- f モデルルートのモニターツアーによる検証(26回)
- g 旅行会社向けの説明会、商談会の開催（2回） 出前セミナー（小網代の森）
- h インバウンドツアー認定分科会の実施（1回、認定数25件）



(I) 開催実績等

平成28年度中に3回の会議を開催し、「地域の観光資源と魅力的な周遊モデルルート（観光資源数：1,076件 周遊モデルルート数：400ルート）」や「インバウンドツアー認定指針」などを協議

(2) 神奈川県観光政策統括アドバイザーの設置

外国人観光客の動向等を分析するとともに、県の国際観光政策に対する助言、提言等を行う『神奈川県観光政策統括アドバイザー』（委嘱者 勝瀬 博則氏）を設置

(3) 外国人観光客の誘致を図るプロモーションの推進

ア 観光レップの設置

ターゲット国・地域（中国・台湾・マレーシア・インドネシア・ベトナム）において、現地の観光事情に精通する事業者（観光レップ）に委託し、現地のメディアや旅行事業者等に対して、県内の観光情報等の提供や観光客誘致のプロモーション活動を実施（10月25日より設置）



イ 海外プロモーションの実施

ターゲット国を中心に、現地の観光展への出展や旅行代理店等の招請などのプロモーション活動を実施

ウ SNSの開設

中国人向けSNS「weibo / 新浪微簿 (シナウェイボー)」を開設 (9月16日)するとともに、これまで4言語 (英語、中国語 (繁体字)、ベトナム語、インドネシア語) で運営していたフェイスブックに、新たにタイ語版を追加 (1月26日)

エ 新たな外国語観光情報ウェブサイトの開設

神奈川県観光魅力創造協議会で発掘・磨き上げを行った観光資源やモデルルート、商品化されたツアーなどを効果的に発信していくため、利用者が行きたい観光スポットを効率的に周遊するコースを提示する機能等を備えた外国語観光情報ウェブサイト『Tokyo Day Trip -Kanagawa Travel Info-』を開設 (2月10日 英語、日本語)



(4) 外国人観光客の受入環境の整備

ア 多言語化の促進

飲食メニューの多言語化支援システムの公開 (7月)

イ おもてなし人材の育成

(ア) 慶応義塾大学SFC研究所イスラーム研究・ラボとの共催により「ムスリム観光客おもてなし研修会」の開催 (9月21日、2月16日の2回)

(イ) 事業者向けインバウンド観光セミナーの開催 (1回目: 3月2日 受講者94名、2回目: 3月10日 受講者91名)

(ウ) 通訳案内士と観光関連事業者とのマッチング会の開催 (3月24日 通訳案内士132名、観光関連事業者15者参加)

ウ 観光案内所等の機能強化

(ア) 観光協会が運営する観光案内所における、無料公衆無線LAN及び携帯電話・スマートフォンの急速充電器の整備に対し、補助金を交付 (3件)

(イ) 羽田空港内の観光情報センターに人型ロボット「Pepper」を設置し、英語で神奈川の観光情報を案内 (12月22日~2月19日 60日間)

エ 外国人観光客に対するニーズ分析・調査等

(ア) 神奈川県を訪れた外国人に対し、目的や移動手段、訪問先、旅行中に困ったこと等のアンケート調査を実施 (1月~3月 回答者 1,383名)

(イ) 携帯電話やWi-Fiの位置情報を活用した動態分析を実施したほか、英語及び中国語簡体字で投稿されたSNSの



Pepper設置の様子

記事を収集し、外国人旅行者の嗜好や行動パターン、地域別の傾向、受入環境に関するニーズ等を分析（4月～2月のうち合計90日）

オ 神奈川県観光客受入環境整備協議会の設置

(ア) 協議会の目的

県内における観光客の受入環境を官民が連携して整備していくため、平成29年1月に設置

(イ) 構成員

行政、有識者、経済団体、観光協会、旅行業者団体、ボランティア団体、宿泊施設団体、公募構成員（16名）

(ウ) 協議事項

a 観光客の受入環境を整備するための具体的な事業の内容と経費の総額

b aの受入環境整備事業を実施する上での行政（県・市町村）と民間事業者の役割分担や連携方策

c bの役割分担等に基づき、行政（県・市町村）が行う受入環境整備事業の財源を確保するための方策

(I) 開催実績等

平成28年度中に3回の会議を開催し、主に「受入環境を整備するための具体的な事業の内容と所要経費」等を協議

基本施策3 観光関連産業の成長促進

(1) クラウドソーシングの活用などによる新たな製品の開発

県産品の発信力を高めるため、全国の消費者・生活者のアイデア・知恵を集めるウェブ上のプラットフォームを保有する企業と連携し、中小企業者の新商品開発（5件）等を支援

3 平成29年度の主な取組予定

基本施策1 魅力ある観光地の形成

(1) 観光資源の発掘・磨き上げ

ア 新たな観光の核づくり

(ア) 城ヶ島・三崎地域において、城ヶ島の東西を結ぶハイキングコースの整備を実施

(イ) 大山地域において、駐車場及び交通情報システムの整備等を実施

(ウ) 大磯地域において、大磯のブランドイメージ等を発信するフリーペーパーを作成

イ 多様な資源を活用した観光魅力づくり

鎌倉、大山、横須賀の「日本遺産」認定を契機に、日本遺産を核として県内全域の歴史をテーマとした観光プロモーションや受入環境の整備を実施（歴史観光ガイドブック・パンフレットの作成、歴史観光PR映像の制作、明治維新150周年記念イベントの開催など）

ウ 観光資源を活用した体験型ニューツーリズムの促進

産業ツーリズム（「京浜臨海部産業観光推進協議会」）や商店街ツーリズムを推進

エ 第8回かながわ観光大賞の実施

(2) 戦略的プロモーションの推進

ア 神奈川の魅力を伝えるプロモーションの実施

(ア) 鉄道事業者と連携して、主要ターミナル駅（JR富山駅、JR仙台駅等）で観光プロモーションを実施

(イ) 「神奈川集中観光キャンペーン実行委員会」による県内外での観光キャンペーンの実施

(ウ) 高速道路会社と連携して季節ごとの観光ガイドブックを作成し、サービスエリアで配布

イ 多様なツールを活用した情報発信

ホームページや観光パンフレットなどに加え、SNSやデジタルサイネージなど多様なツールを活用して、最新の観光情報を発信

(3) 受入環境の整備

ア かながわ移動観光大学の開催

地域の観光振興全般に関わるセミナー等を開催

イ 第3回 高校生 外国人「おもてなしアイデア」コンテストの実施

ウ 歴史観光ガイド説明会の開催

歴史研究の有識者等を講師に迎えて県内各地域で説明会を開催するなど、地域のボランティアガイドを育成

基本施策2 外国人観光客の誘致促進

(1) インバウンドツアーの企画・商品化の促進

「神奈川県観光魅力創造協議会」による、更なる観光資源の発掘、出前セミナーによる外国人目線での磨き上げ、商談会の開催等の取組により県内で周遊するツアーの企画・商品化を促進

(2) 外国人観光客の誘致を図るプロモーションの推進

ア アジアのターゲット圏へのプロモーション

パンフレット・SNS・現地メディアを活用した情報発信、旅行代理店等の招請、国際観光展への出展、近隣都県等と連携した共同プロモーションを実施

イ ラグビー人気が高い国をターゲットとしたプロモーション

ラグビーワールドカップ2019™参加国の公式旅行代理店やメディアの招請

ウ 外国語観光情報ウェブサイトを活用した情報発信

『Tokyo Day Trip -Kanagawa Travel Info-』に、新たに中国語（繁体字、

簡体字)、韓国語を追加

(3) 外国人観光客の受入環境の整備

ア 民間事業者への支援等

(ア) 「神奈川県観光魅力創造協議会」が新たに発掘した観光資源に対し、民間事業者が、無料Wi-Fiや外国語表記等の整備をする事業に補助

(イ) 県内事業者向けに24時間対応で、3言語(英語、中国語、韓国語)による電話通訳サービスを行う多言語コールセンター事業を実施

(ウ) 県内で活動しているガイドを対象とした研修や、ガイド団体等とガイド志望者とのマッチングの実施により、おもてなし人材の育成を促進

イ 外国人観光客動態調査等の実施

外国人観光客の動態の把握やニーズを分析するため、携帯電話やWi-Fiの位置情報を活用した動態調査やアンケート調査を実施

ウ 神奈川県観光客受入環境整備協議会の開催

平成29年4月から同年8月までに3回の会議を開催し、「受入環境整備事業を実施する上での行政と民間事業者の役割分担と連携」や「受入環境整備事業の財源を確保するための方策」等を協議し、結果を取りまとめる予定

基本施策3 観光関連産業の成長促進

(1) 地域の産品の開発や販路開拓等

アンテナショップの運営による情報発信や、クラウドソーシングの活用などにより、新たな産品の開発及び販路開拓等を支援